

R 元. 7. 27 二宮西中学校意見交換会

出席者 35 人

町教育委員会：森教育長・原教育委員

事務局：黒石教育部長・下條教育総務課長・永井指導主事・寺口指導班長（書記）

1. 開会

10:00～

2. 挨拶

森教育長から

3. 説明

- ・原道子教育委員 「小中一貫教育とは」
- ・大原学院の VTR を視聴
- ・永井指導主事 「二宮町小中一貫教育校設置計画案について」

4. 意見交換

川勾地区住民：二宮西中学校の地域では、コミュニティ・スクールの活動の中で、地域の人と二宮西中学校の生徒でそばを植えるという活動を行いました。このように、地域として子どもを育てることなのですが、今回の計画案の中で、一番心配しているのは、計画案の学校の組み合わせが良くないと思います。通学区域、安全な通学方法、通学経路が大きな課題だと思います。そのことについて、ほとんど検討、議論されていません。結論づけでもこのような記載がされていません。研究会の委員には二宮西中学校の方面の人が研究会には入っていなかったのではないのでしょうか。提案がなければ、委員も検討はしないと思いますので、当然だと思います。また、以前山西小学校と二宮西中学校が一色小学校に統合されると報道されたものと計画案が変わってしまっていると思います。川勾、茶屋地区についてはこの計画案が示されて、地域が混乱しています。なぜこのような計画になったのか経緯を教えてください。町の広報に掲載される前に、なぜマスコミに先に報道されたのでしょうか。町全体のアンケートを行う予定はあるのでしょうか。町議会議員の中で川勾は町の僻地だと発言した人がいるそうです。議員は町の代弁者だと思うのですが、この言葉の意味と、このような発言についてはどう思っているのでしょうか。

教育長：地区の中の学校だということは十分承知しています。子どもたちにとって何が大切かということが一番に考えています。この計画案をたてるにあたっては、山西小学校の子どもを分断することないようにするのは、どうしたらよいかということから考えました。最初の発端は一色小学校の単級化を解消するにはどうしたら良いかということから、山西小学校と統合して、1つの学校とした方がいいのではないかという意見があったそうです。しかし、ただ統合するのではなく、子どもたちの教育にとって、何が一番いいのかを考え、そこから小中一貫教育を考えようということで、研究会を開催しました。どこの学校を統合するということは結論を出さずに、まず2つの施設一体型の小中一貫教育校を作るのが良いということがまとまりました。川匂と茶屋と越地地区については、課題があると思っていますので、通学方法の検討ではなくて、学校を変えた方がいいということであれば、ご意見を聞かせてください。

川匂地区住民：大原学院は小中一貫教育校としようとして、改修をする際に、渡り廊下を作るだけで出来たということですので、二宮町とは違うと思います。デメリットについての説明が少なかったですが、校舎の改築はかなりのコストがかかります。なぜ多額のコストをかけて、このようなことをするのでしょうか。通学地域の拡大によって、地域のコミュニティが崩れてしまいます。今回の案を行うとすると、二宮西中学校が一色小学校に行ってしまうと、コミュニティが離れてしまい、地域として学校を助けることが出来なくなってしまうと思います。小中一貫教育校のデメリットとして、通学距離が遠くなったことにより、小学生は不登校が増えてしまうということがあるという報告が出ています。また、施設一体型の小中一貫教育校を進めている学校は全国で13%、隣接型が5%、分離型が78%になっています。つまり、分離型が8割近くを占めていて、わずか1割程度しか行っていない一体型に、なぜ二宮町はしようとしているのでしょうか。

部長：地域とのつながりはとても大切だと思っています。当面は小学校に1つは学校を残していこうということを考え、まずは分離型で小中一貫校を行っていこうとしています。一色地区には1つしか学校がありませんので、一色小学校を残し、山西地区には2つ学校があるので、どちらかを残し、二宮地区にも2つ学校があるので、どちらかを残すということを考えました。当面は分離型で小中一貫教育を行い、施設一体型の小中一貫教育校の方がより効果があるという考えの元、このような提案をさせていただきました。今、アンケートについては、考えていませんでしたが、これから、各地区などに

も丁寧に説明をしていきながら、それでも足りないということがあれば、アンケートなども検討していく必要があると思っています。

教育長：コミュニティの崩壊というのは危惧しています。コミュニティこそ、二宮町に必要なことだと思っています。昨日の意見交換会の中で、小学校3校を統合すればいいという意見もありました。将来的には、二宮町全体で二宮町の子どもを育てていきたいということだと思います。地域の方が子どもたちに声を掛けていただけるだけでもいいと思っています。

茶屋地区住民：川匂・茶屋・越地地区の人たちが心配しているのは、なぜ二宮西中学校を一色小学校に持っていかなければいけないのか、山西小学校をなぜ一色小学校に持っていかなければいけないのかということです。一色小学校は今の6年生が卒業してしまったら、全ての学年が単級になってしまいます。山西小学校は、各学年2クラスずつあります。なぜ学級数の多い山西小学校が一色小学校に統合しなければいけないのでしょうか。この実施計画を来年3月までになぜ決めなければいけないのでしょうか。なぜそんなに急ぐのでしょうか。一色小学校の児童の推移を教えてください。学校を動かして、通学に1時間かかるようなことになれば、地域の人たちは出ていってしまうと思います。地区長会においては、地域の役員をやる人が少なく、地域を合併する研究も行っています。二宮から外に出ないように、呼び込むことを考えなければいけないのではないのでしょうか。それは、総合戦略に位置づけられているのに、それとは逆のことをしているのではないのでしょうか。百合が丘の高齢化率は44%です。二宮町の高齢化率の平均は33%です。富士見が丘は45%。2060年の国立の推計によると、二宮町の人口は1万4千人です。そこを1万7千人にしようという取組を町は行っているのではないですか。現在の2万7千人の人口はどこが減るのでしょうか。百合が丘・富士見が丘・緑が丘が減っていくと思います。学校の再編については、慎重に行わないと町が2分すると思います。これから何回も意見交換会を行って、お互いに納得するような形を取らないと、新庁舎の時と一緒になくなってしまいます。庁舎をラディアンの裏に持っていくのは、防災の観点からもいいと思い、推進の立場でしたが、新庁舎の二の舞にならないようにしていただきたいと思っています。二宮西中学校を一色小学校に持っていくとしても、議会の同意が必要だと思いますが、このままでは議会では承認されないのではないのでしょうか。山西地区の賛同を得ない限りは、この計画案は進まないのではないのでしょうか。

指導主事：住民基本台帳から出した人数は、2022 年は、山西小学校は 590 人、一色小学校 165 人、二宮小学校は 338 人、二宮中学校 351 人、二宮西中学校は 358 人です。社人研からの推計は 2025 年は一色小学校では 235 人という風に増えてしまっています。推計なので、誤差が生じてしまっているの、それを承知のうえでお聞きください。2030 年の二宮小学校の人数は 381 人、一色小学校は 198 人、山西小学校 270 人、二宮中学校 274 人、二宮西中学校 213 人となっています。

釜野地区住民：小中一貫教育の導入についての検討と学校の統廃合についての検討が一緒になってしまっています。具体的に聞きたいのは、中学校の先生が小学校に乗り入れ指導をするということですが、現在の定数の中で、高度化していると言われている教科、例えば英語や理科、数学などを考えているのだと思うのですが、どれだけ乗り入れすることが出来るのでしょうか。また、小学校の先生が中学校の部活などを一緒に行うということですが、先生の負担が増えてしまうのではないのでしょうか。教科担任制を考えると、中学校の先生の負担がすごく増えてしまうのではないのでしょうか。それについてはどれだけ推計をしているのでしょうか。特別支援教育について、新学習指導要領ではかなりのページ数が割かれています。それなのに、特別支援教育について、この計画の中ではほとんど触れられていません。一色小学校と山西小学校が統合されてしまうと、特別支援教育の先生の数が減ってしまいます。これも教育条件の悪化ではないのでしょうか。人的なことについても町独自で行う予定があるのでしょうか。英語の研究についてですが、標準法の定数の中の先生が行ったのでしょうか。県の特別の研究で行ったのであれば、研究が終われば、はがされてしまうのではないのでしょうか。二宮町の教育要欄を見たのですが、現在の子どもたちの在籍数が書いてあるのですが、特別支援学校に行っている子どもの人数が一切記載されていません。教育支援委員会が開催されているはずですので、人数は把握しているはずですが、それなのに、記載をしていないというのはおかしいと思います。

教育長：小中一貫教育校を進めるうえで、支援教育はとても大切だと話をさせていただいています。教育要欄に支援学校に通っている子どもの数が載っていないのは、申し訳ありませんでした。中学校の支援級については、学級担任制ですので、同じ先生がずっと見ている小学校に比べると、個人個人にあった教育がされにくくなっていると感じています。小学校が合併すると、先生の人数が減ってしまうのではないかとのことですが、県の方では、加配というものがあり、複数配当というものがあって、8人を1人でみるのではなく、

2人でみることになります。

釜野地区住民：小学校から中学校にあがるときに、十分な配慮があつてしかるべきだと思います。個別支援級こそ、一貫しておこなうべきだと思います。

川勾地区住民：推進研究会を4回ほど行っているようですが、その中では、小中一貫教育校を作ろうということを決めただけであつて、どこにどのように設置するかということが結論づけられませんでした。二宮西中学校を一色小学校に持っていくというようなことはどこで決まったのでしょうか。教育委員会議の中できちんと議論しなかったのでしょうか。

教育長：どのような環境が子どもたちの教育に一番いいかということを考え、小中一貫を分離型で行うのは難しいということで、施設一体型の小中一貫教育校を行うのがいいと考えました。どこにするのかということは、まずは案を提示しなければ議論を行えないので、まずは案を示したうえで、それについて意見を伺いたいと思い、このような意見交換会を開催させていただきました。そして、再考した案を教育委員会議に提案したいと考えています。なぜ3月までに決めなければいけないのか、ということと言われましたが、確かに急いで決めることはないと思いますが、なぜ早くやらないんだという意見もありますので、いつまでも決めないわけにはいかないので、目安として3月までとさせていただきました。地区で子どもたちを育てたいと思っているので、まずはそれぞれの地域の子どもたちとのコミュニティ・スクールをおこなって連携も図っていききたいと思っています。

教育委員：小中一貫のデメリットということですが、幼稚園・保育園から小学校に上がるときのギャップを感じている子どももいて、幼稚園・保育園と小学校の感覚が違うことが大きな壁となっていることも分かっていますので、そこについても充実させていかなければいけないと思っています。教育委員会議の中身を充実させるということについては、教育委員会議の前後に学習会を開いてきました。学習会では、素案をもとにして、この素案で大丈夫だろうか、学区についても1年生が本当に通えるかなども考えてきました。教育委員会議会議録の中で、学習会の経過が出されていなかったのですが、会議録は町民の皆さんへの説明ツールですのできちんと出すべきだったと思います。

不明：昨年の研究会については終わったのでしょうか。そこで、答申が出ている

のでしょうか。学校が統合されると、通学路の問題もありますので、町のコミュニティバスをスクールバスにすることは検討していくべきだと思います。

部長：昨年度は学校長の代表、PTAの代表、地区長の代表、学識経験者ということで大学の先生、研究会ということで行いました。内容をまとめたものをホームページにあげています。通学路についても考えていくべきだと思っていて、スクールバスに対する補助等も検討していきます。

越地地区住民：学区は二宮町を縦方向に割るという案は出なかったのでしょうか。梅沢を含めて西中の学区にしたら、地域のコミュニティとも合うと思うので、どうでしょうか。学校については、西側は山西小学校と二宮西中学校、東側は二宮小学校と二宮中学校。一色小学校は廃止ということは考えなかったのでしょうか。

茶屋地区住民：社会福祉の関係で梅沢、越地、川匂、茶屋の広域化を行っています。そのような中で、学校は山西小学校。一色、緑が丘の人口は減っていきます。

川匂地区住民：山西小学校がなくなると聞いて、びっくりしました。押切地区の一年生の子は、今も50分から1時間かけて通っていて、今でも遠いので大変なので、一色小学校に移るのであれば、スクールバスが出るものと考えていました。廃校になるのであれば、建物をどのように利用する予定なのでしょうか。地区は住む人が少なくなってしまうと思いますし、6年生が卒業記念を作るのに、廃校になってしまうから見の人がいなくなってしまうということを言っています。今後どのようなのかということ山西地区に住んでいる小さいお子さんを抱えている保護者は不安に思っていますので、説明していただきたいと思います。

川匂地区住民：一色小学校は校舎がとても古くなっています。また、体育館は耐震工事を行っていません。昭和48年竣工で、既に危険な状態になっていて、建て替えが必要です。反対に二宮西中学校は体育館も耐震工事を行っていて、校舎が建ったのも10年以上も違います。わざわざこのような良い学校を使わないのでしょうか。二宮町は財源がないのに、なぜなのでしょう。財政計画の案を見たのですが、平成30年に公共施設実施計画というものが出されています。廃校になるとしたら、学校開放の拡充の検討、地域コミ

ユニティの活用の中とする、災害の広域避難所として引き続き使っていくなど、校舎は後で利用するとしても、維持費がかかるわけです。計画案の中では、財源についてもきちんと示してください。

越地地区住民：みんなが合意するまではやらないということによろしいのでしょうか。デッドラインはないということによろしいのでしょうか。

教育長：皆さんの意見をきちんと聞いて納得していただける計画を作っていきたいと考えています。

越地地区住民：小中一貫教育を進めるのはいいと思います。大原地区で行った説明の中で、学校がなくなると地域がなくなるという説明がありました。住むところを探すときに、子どもが歩いて学校に通えるところを考えるとと思います。もし、山西小学校がなくなったら、川勾や越地に入ってくる人はいなくなるとと思います。学校がなくなると、人口減少のペースがあがっていくとと思います。学区の中で、二宮小・一色小・山西小を残せばいいのではないのでしょうか。しかし、一体型にすると、中学生は部活をしていて、小学生は学童の子どもたちが遊んでいると思います。中学生の部活が制限されてしまうということや、中学生と小学生と一緒に昼休みなどに遊んでいると、事故なども起こりかねないと思います。ですから、必ずしも一体型ではなくて、分離型でもいいのではないかと思います。いじめや不登校などの問題は、先生の質の問題なのではないかと思います。小中一貫校になったからなくなるということではないのではないかと思います。

川勾地区住民：川勾から一色小学校まで行くと、3kmちょっとありますので、子どもの足で行くと、45分ぐらい坂を登って行くことになるので、学校に着いたら疲れて寝てしまうのではないかと思います。体力が持つのかと心配になります。山西小学校に一貫校を作っていただいて、中学生の部活は、町民グラウンドを開放して、行ったらいいと思います。町民グラウンドは昼間は中学生が部活に利用して、夜や土日は大会等を行えばいいと思います。川勾は僻地だという意見が議員さんがいたということですが、川勾地区に15棟の分譲が出来ることになっています。また、川勾神社の横にも6棟の分譲が出来るようです。川勾は学校も近いし、国道にも面しているし住みやすいということで売り出していると思いますので、こんな話を聞いたら、他に行ってしまうということもあると思いますので、一色小学校に小中一貫教育校を持つていくのはおかしいと思います。

茶屋地区住民：一色小学校は単級で、クラス替えが出来ないので、可哀そうだと思います。そうであれば、一色小学校を山西小学校に持って行ってもらおうというのが一つの手段ではないかと思います。